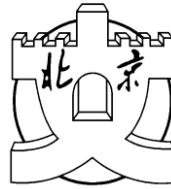


# かささぎ



北京日本人学校  
学校通信 第1号  
令和2年4月24日  
校長 栗本 和明

## 令和2年度（2020年度） 年度当初にあたって

新しい年度が始まりました。保護者の皆様、関係者の皆様、お元気でしょうか。コロナ禍の渦中、直接お顔を見ながらご挨拶することもかなわず、子どもたちの元気な姿を見ることもできない、異例の学期始めです。この文章を北京で読んでいる方、日本各地で読んでいる方、様々だと存じますが、皆様どうかお子様の力強い支えになってください。学校で友達と話したりふざけ合ったり、喧嘩したり仲直りしたり…、という日常から離れざるを得ない子どもたちにとって、身近な大人の「どっしりと構える姿」や「どんな時も自然に溢れる笑顔」は大きな力となります。私たち職員も、こんな時だからこそ「チーム日本人学校」の一員であることを強く意識し、謙虚に着実に、笑顔で子どもたちを支えようと思います。1年間、どうぞよろしくお祈りします。

子どもたちが登校しての学校再開は、本日現在、かないませんでした。明後日26日の入学式も在宅のままでの実施です。この状況の中で強く思うのは、「子どもたちと教師とが直接顔を合わせながら進める教室での授業に勝る学習はない」ということです。友達の考えを聞いて新しい発見をしたり、つまづきを教師の的確な支援や友達のアドバイスで乗り越えたり、学級の友達と「分かった」「できた」と感動を共にする。様々な個性を発揮する、多くの子どもたちが共に学ぶ場、これこそが学校のよさであり、どんなに優秀な家庭教師にも、有名学習塾にも真似のできない、唯一無二の強みです。校長として、「在宅での学習が長期化しないで欲しい」と強く願うばかりです。

しかし、子どもたちにとって、今日から始まる新学年は一生に一度きり。二度と取り返すことができない大切な大切な日々です。在宅での学習をいかに充実させるか。困難なこの命題を前に、昨年度末から、北京に留まる20人の教師と、日本で赴任指示を待つ8人の教師が力を合わせ、一生懸命知恵を絞って試行錯誤してきました。「Webで子どもたちと教師とが双方向でやりとりをしながら進める学習」を創り上げる。当初の予想より、ずいぶん課題が多く、準備も大変なことが分かりました。以下、準備を進める中で出てきた課題の一部です。

- 教室であれば、大きな資料を黒板に貼って、それを全員で見ながら話し合う、という活動も、Webで行うためには、その資料を画像データとして取り込んで、見せたい部分を加工して…という準備がいります。
- 著作権法の関係で、複写がままならない、という壁も。教師と子どもとが同じ教科書を手元に持っている前提で進めることは、分かっているけど、子どもたちに教師の指示が伝わるかが不安です。
- 多くの子どもたちが集まる教室では、1つの学習課題に対して、様々な考えが出されます。時には教師が予想もしないような考えも。これらが授業を活性化させ、子ども同士の「学び合い」や教師の新たな発見が「学習の深化」につながります。Web授業では「手を上げる」という機能があるのですが、教室のような自由闊達な意見交換はできません。
- また、教室であれば「子どもの表情」や「活動状況」や「つぶやき」から、指示が通っている（通っていない）、理解している（理解が十分でない）、楽しそうに取り組んでいる（進んで取り組んでいない）などを教師は瞬時につかんでフィードバック、新たな指示をしたり、支援をしたり、一旦活動を止めて集中を促したり…と、「あの手この手」を駆使して授業を進めます。Web学習では、子どもたちの微妙な表情がつかめない。最も難しいのがこのことでしょうか。
- 小学部低学年の子どもたちは、パソコン操作を1人でできないかもしれない。保護者の支援をお願いするべきか。
- 各教科ごとに難しさが違う。例えば英語科では、子ども同士で会話練習をすることが難しい。音楽科では互いの歌声を聴き合ってハーモニーをつくるのが困難である…等々。

授業準備を進めながら、何度もミーティングを重ねました。代表の先生が授業を行い、他の先生たちが「子ども役」になって学習し、「画面の問題が見にくい」「他の人の発言が聞き取りにくいから『チャット機能』を使った方がよい」「せっかく『手を上げる』で発表したいことをアピールしても先生に伝わりにくい」など、授業を受ける子どもの立場で考えました。また、互いの授業を見合って改善点を指摘し合うこともしました。

さあ、いよいよWebでの授業が始まります。保護者の皆様、お子様の学習の様子を是非学校にお伝えください。楽しそうに取り組んでいますか？分かりやすいですか？集中力は続きましたか？簡単すぎ（難しすぎ）ではないですか？

日々状況は変化しています。この先どのような対応が求められても、学校と家庭とが、子どもを真ん中に置いて、しっかりと手を携え、より良い学習の創造を続けましょう。1年間どうぞよろしくお祈りします。

校長 栗本 和明



# 新赴任教員紹介



## 森下 佐和子（もりした さわこ）先生

みなさん、初めまして。富士山、サッカー、お茶にミカン。いつもぼかぼか温かく、歩くのもしゃべるのもゆっくりで、ちびまる子ちゃんに出てくるような、のほほ～んな人がたくさんいる静岡県から参ります。これから一緒に学習したり遊んだりする中で、みなさんの素敵なおところを見つけ、早く仲良くなりたいです。みなさんが楽しい学校生活を送ることができるよう、精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。

## 加地 文子（かぢ あやこ）先生

はじめまして。京都府より参ります。生まれ育ったのは埼玉県で、神奈川県にも住んでいたことがあります。学生時代はチアリーディングをしていました。体を動かしたり歌を歌ったりすることが大好きです。この度ご縁があり北京日本人学校への赴任が決まり、みなさんにお会いできることをとても楽しみにしていました。共に楽しく充実した学校生活を送ることのできるよう努めてまいります。これからよろしくお願ひいたします。

## 齋藤 仁（さいとう じん）先生

はじめまして。この度みなさんと一緒に学校生活を送ることになりました齋藤仁と申します。私は、笑いの都、大阪から参ります。この北京日本人学校に赴任が決まってから、皆さんと一緒に学び、遊び、笑い合う素敵な学校生活に胸を膨らませてきました。北京の素敵なおところをたくさん教えてほしいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

## 鈴木 総一郎（すずき そういちろう）先生

はじめまして。私は茨城県日立市から参ります。水戸黄門（徳川光圀）が「日の立ち昇るところ領内一」と称えたという故事から日立と名付けられた通り、海から立ち昇る朝日がとても綺麗な市です。私の担当教科は国語科です。祖父の影響で、小さい頃から司馬遼太郎の本を読むのが好きです。「坂の上の雲」を初めて読んだ時の感動を今でも覚えています。授業を通して、知識だけでなく、読書の楽しさや面白さも伝えていきたいと思ひます。

## 富宅 剛太（とみたく ごうた）先生

北京日本人学校の児童生徒の皆さん、こんにちは！  
この度、東京の八丈島という離島から赴任します富宅剛太です。子どもたち一人一人と正面から向き合い、常に全力を尽くして指導にあたります。「ACTION」「IMAGINATION」「CREATION」をモットーに、多くの方々とのかかわりを大切にしながら、子どもたちの学校生活がよりよいものになるよう努めていきます。よろしくお願ひいたします。

## 宇都 侑太郎（うと ゆうたろう）先生

はじめまして。九州地方の鹿児島県から参ります。この度は、北京日本人学校に在籍する子どもたちの成長を一教員としてお手伝いできることを大変嬉しく思ひます。私は子どもたちのキラキラした笑顔を見るのが大好きです。笑顔、元気いっぱい子どもたちと勉強や遊びに励み、日々共に成長していきたいと思ひます。温かい場所に慣れているため、寒い北京での生活は不安だらけですが頑張ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 平尾 美紀（ひらお みき）先生

はじめまして。平尾美紀と申します。皆さんにお会いできるのを大変心待ちにしておりました。初めての北京での生活に期待と不安で一杯ですが、新しいことへ挑戦することにわくわくしています。楽しい学校生活を送ることができるように精一杯頑張ります。宜しくお願ひいたします。

## 山田 大地（やまだ だいち）先生

はじめまして。私は「日本のひなた」宮崎県から参ります。4月から北京日本人学校の皆さんと会えることを楽しみにしていました。趣味は野球・サッカー・バスケットなどいろいろなスポーツを観戦することです。観るだけでなく、スポーツをすることも好きです。一人ひとりに向き合い、皆さんが楽しい、充実した学校生活を過ごせるように頑張りますので、これからよろしくお願ひします。

## 佐藤 舞子（さとう まいこ）先生

みなさん、こんにちは。この度ご縁があり、スクールカウンセラーとして北京日本人学校に参りました。先生や職員の方々と一緒に、みなさんが楽しくよりよい一日を学校の中で過ごせるよう、お手伝いができたらいいなと思ひています。なにか困ったり、悩んだり、ちょっとお話ししたいなと思ひた時、気軽に声をかけてくださいね。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 【教職員組織】

<b>校長</b> 栗本 和明 <b>事務局長</b> 倉片 治子	<b>教頭</b> 小川 裕子 <b>教務主任</b> 江島 亮
<b>小学部</b> 1年担任 齋藤 仁 田島 里紗 2年担任 高森 貴央 青木 和美 3年担任 森下佐和子 鈴木利勇摩 4年担任 千田 愛 小林 克啓 5年担任 三浦 亜紀 土田 赳之 6年担任 西村美優紀 富宅 剛太  低副担任 山田 大地 中副担任 野村 樹裕 高副担任 佐々木望美 副担任 尾鼻 祐也	<b>中学部</b> 1年担任 鈴木総一郎 副担任 宇都侑太郎 副担任 入川 琢仁 2年担任 平尾 美紀 副担任 池西 雄輔 3年担任 加地 文子 副担任 山本 典良  中学部長 伊藤 崇憲  <b>養護教諭</b> 戸倉 若菜  <b>スクールカウンセラー</b> 佐藤 舞子  <b>講師</b>  中国語講師 英会話講師

## たぐい時 何人?

<b>小学部</b>				令和2年4月24日現在			
	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1年	9	11	20	4年	12	20	32
2年	21	21	42	5年	10	10	20
3年	17	12	29	6年	20	16	36
				小総計	89	90	179

<b>中学部</b>			
1-1	10	9	19
2-1	13	9	22
3-1	7	8	15
		中総計	30
		総合計	119
		116	235

### 《2020年度授業料の納付についてお願い》

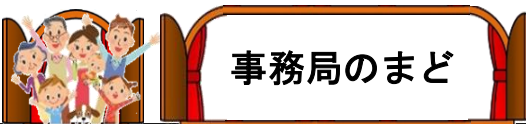
- 1年分を3か月分ずつ、4回に分けて納付ください。
- 個人で授業料を納付される方に対して、事前に請求書は発行いたしません。恐れ入りますが、左記スケジュールにご注意いただき、期限前に振込いただきますようお願いいたします。
- 領収証は納付期限後、全体の納付状況確認ののち、発行し、個人納付の場合は、担任を通してお子様にお渡しします。もしお急ぎの場合は、事務局までご連絡ください。
- 企業納付の場合は、請求書、領収証とも学校が直接企業様にお送りします。

## 2020年度 授業料納付スケジュール

	納付期限	児童・生徒1人あたり 授業料金額
第1回	2020年5月15日(金)	7,200円(4~6月)
第2回	7月15日(水)	7,200円(7~9月)
第3回	10月15日(木)	7,200円(10~12月)
第4回	2021年1月15日(金)	7,200円(1~3月)

### (ご注意)

本校は法人として「発票」を発行する資格がありません。領収証以外の授業料授受の証明はできませんのでご了承ください。



### 事務局のまど

長い冬のあとの北京の短い春が駆け足で過ぎ去ろうとしています。最近気温が20度を超える初夏の日もあり、陽も長くなって、夕暮れどきの解放感は格別です。まだコロナの影響は収まってはいないものの、車や道行く人の数も増えてきました。この3か月で変わったことは何でしょう？

冬のあいだ、児童生徒がいない学校で、教員も職員も時差出勤、在宅勤務を余儀なくされていました。私自身は毎日学校に来ていましたが、他の職員への仕事の分担を通し、働き方について考えさせられました。スタッフが学校に来ないと、解決しない事柄があり、これについては、ふだんスタッフの存在に支えられているのだなあと思い知りました。一方で、学校に来なくてもやってもらえること、自宅のパソコンで作業すれば済む部分もあり、報道でも見るこれからの世の中の方向はこれか、と実感しました。日本でも否応なしのテレワークが広がっているようですが、離れた場所での各人の仕事をうまく導いていくにはスキルのなものと同時に、全体のコミュニケーションと相互信頼が必要というのが、約2か月の在宅勤務・時差出勤管理者としての感想です。

学校は生徒児童が集まって活動することを前提とした場であるところ、北京日本人学校はコロナの波にあらがって、オンライン授業を展開しようとしています。最終的にはリアル開校することをゴールに置きながらも、現時点でできるベストの授業を提供しようと教員たちは念入りな準備をしており、事務局も協力しています。この3か月のあいだ、児童生徒数の減少、中国当局から課される数々の制約、日本の状況の変化からくる影響等、学校が置かれる環境は毎日変化していますが、教員たちは、この危機にもまれたことで、一層たくましくなり、オンライン授業という未知の分野で新たな能力を磨き上げたように私には見えます。保護者の皆様には、この新しい試みのスムーズな立ち上げと展開にぜひご協力とご信頼賜りたくお願い申し上げます。

(事務局長 倉片)